

三條別院のご案内

三條別院に想う

聞法の御縁を頂いて四半世紀が過ぎた。勤め人であった為、長く三條別院に足を運ぶことは少なかった。白状すれば今も自己関心と疑いの囚われが強く、教区のテーマ「共にといえる人生を生きよう」は眩しく、信心については「教えに出遇えなかったことを考えると恐ろしい」と核心を避けたい。それでも色々な御縁を頂いて「聞法せよ」と促され、推進され続けている。推進員になったことは有難いと感謝している。

昨年六月、三條別院公開講座「に参加した。「心の問題と仏教思想・親鸞思想―自己愛の病理の理解とその対応をめぐって」という講題で、森田療法研究所長の北西憲二氏による三回シリーズの最終回での出来事である。講題のせいか、日曜日のせいも、若い方や初めて別院に来られたという方も少なくなかった。

講義は、現代は欲望が反自然的に肥大した自己愛の問題を生み出し、理想の自己「かくあるべし」は強迫的な「不安障害」や「うつ病」の原因ともなっている。自己の限界を知って（たかが自分）、苦悩を受容し、自然に従って（自然法爾）、自己を実現する「あるがまま」の生き方が、苦悩からの回復プロセスとなるということであった。

真宗大谷派三條別院

TEL : 0256-33-0007

E-mail : sanjo-betsuin@wing.ocn.ne.jp

レジメには創始者森田正馬氏の「親鸞聖人が法然上人に出遇うまでは恐らくは、道徳恐怖・読書恐怖・悟道恐怖等の強迫観念に悩んだものと思われる」という言葉が紹介されていた。

質疑は真剣で活発であり、最後に「私は八三年間、対人恐怖症に苦しんできました。このまま生涯を終えるものと思っています。」と発言された方がおられた。講師は「今ここでお話しされたことによつて、貴方はもはや対人恐怖症ではないでしょう」と応じられた。何故か私自身が解放された様な気がしたのは緊張していたからに違いない。

細部に記憶違いがあるかも知れぬが、御遠忌事業によつて御修復なった荘厳な本堂に於いて、言葉が次々と人を動かし、堂内に響きながら広がっていった不思議は忘れられない。本堂が場としてはたらいていたとしか思えない。

第二十一組超願寺門徒 佐藤セツ氏

○次回の「三條別院に想う」は、

小林智光氏（第十一組淨照寺）より

ご執筆いただきます。

清掃講（庭講）からのお知らせ

去る一月二十七日、清掃講（庭講）の今後の活動計画について協議を行いましたので、ご報告いたします。

長期的展望として、今後一年間は、別院の庭樹の性質を把握するため、講員のなかの庭師経験者のもと各樹木の剪定時期の把握・保持に努める事となりました。ならばに「お講」というもの有り方を考えるため、他教区（小松教区）の「お講」の状況を視察させてもらいに行くこととなりました。もし清掃講の活動にご賛同される方がいらつしやいましたら、引き続き講員募集中でございますので、お気軽にご参加ください。

立花講習会の「案内

別院春彼岸会（三月十七日（木）〜十九日（土））のため、仏花を参加者とともに立てる、立花講習会を開催いたします。普通寺院の立花にも応用できる内容になっておりますので、ぜひご参加下さい。

◇開催日 三月十四日（月）

◇講師 白鳥 賢、風巻和人、長尾豊隆、

巨谷 学、福田 学、井上知法、

（敬称略）



詳細は案内チラシをご参照ください。

子ども奉仕団2016のご案内

三条別院ではお釈迦様の誕生日（四月八日 花まつり）、親鸞聖人の誕生日（四月一日）にあわせて、子ども



も奉仕団・お誕生法要を毎年開催させていただいております。初めて会う友達と共に、お寺に触れていただくことで、「いのちの大切さ・本当の私」について考えられるような、楽しい奉仕団を目指しております。本年度のスローガンは「あつまれ！ 同朋ジュニア」です。ぜひご参加ください。

◇開催日 三月二十九日（火）～三十日（水）

◇対象 現在小学一年生～六年生の方

◇会場 三条別院

◇締切 三月十一日（金）必着

◇定員 六十名

（内二十名東日本大震災被災地からの招待）

詳細は案内チラシをご参照ください。



2015年子ども奉仕団の様子。
灌仏（上）・正信偈のお勤め（下）。

宗祖御命日のつどい

宗祖親鸞聖人の御命日であります毎月二十八日に、「御命日の集い」を本堂にて、日中法要と法話、その後、座談会の場を開いております。

どなたでもお参りいただけます。皆様のご参詣をお待ち申し上げます。

また、今月は「年頭会」と兼ねるため、座談会をお休みさせていただきましたので、ご了承下さい。

なお、前日（二十七日）はお逮夜法要を、午後一時三十分よりお勤めしております。

◇日時 二月二十八日（日）午前十時より

◇会場 三条別院 本堂

◇お勤め（御命日）日中法要

文類偈 行四句目下

念仏讃 洵五

和讃 回口 次第六首

回向 願以此功德

◎今月の法話講師

有坂次郎（三条別院会計）

— 『歎異抄』に聞く【第二章】 —

◆一月の御命日のつどいより、『歎異抄』に聞く」という内容で、第一章から順に、それをテーマにした法話頂いております。



◇今後の講師一覧

三月 中島義紘氏（第十一組願興寺衆徒）
四月～ 定例布教講師が順次法話を行います。

第一回『歎異抄』に聞く」を担当して

米山裕子氏（第十五組浄福寺衆徒）

本年から御命日のつどいには、『歎異抄』をとりあげてくださうという難題をいただきました。第一回目は、序文と第一章。序文については「先師の口伝の真信に異なることを歎き」とあります。先師の口伝の真信とは曾我量深先生は「二種深信を指すとおっしゃっております。そして二種深信こそ信心であるとおっしゃっています。第一章については「弥陀の誓願不思議にたすけまいらせて（中略）すなわち撰取不捨の利益にあずけしめたもうなり」を第一段とし第一の勸信であるとされ、「弥陀の本願には老少善悪のひとをえらばれず。ただ信心を要とすとしるべし」を第二段、成上起下、中間の鍵とすえられ、それ以後の「そのゆえは」から終わりまでを懷疑とおさえられております。この第一章こそ真宗の大綱であるとも教えてくださっています。修正会の年頭のごあいさつで、三条別院の御輪番より、御遠忌も終わつた今、これからは一人一人が信心を問うていかなければならないとお言葉をいただき、改めてこの『歎異抄』を学ぶことの意義を強く感じしております。

本願を信じ念仏申すということについても、私たちは信と念仏が一つのものとならず、ともすれば仏をも自分のものとしようとしてはいいで

しようか。蓮如上人はこの歎異精神で真宗の再興をはかられたといわれます。いまこそ自己自身の信心を問いつつ、聞信に尽きる一年でありたいものです。次は別院会計の有坂さんにバトンタッチです。

定 例 法 話 会

毎月十三日の前門首のご命日(両度の命日)に行っている定例法話会を左記の通り開催いたします。

◇日 時 毎月十三日 ※八月、一月は除く

午後一時三十分より(二時間程度)

◇場 所 三条別院 旧御堂

◇講 師

二月～四月 齊藤 研 氏

(第十五組正樂寺)

「総序に学ぶ真宗入門」

◆親鸞聖人が著された『教は信証』の総序についての法話です。



五月・六月 村山教二氏(第十一組願興寺)
七月 松岡誠一氏(仏像文化財工房)
「親鸞聖人御木像調査について」

◆二〇〇八年から二〇二五年にかけて行われた宗祖親鸞聖人御木像調査について、担当委員の村山教二氏と、新湯日報の連載記事でもおなじみの松岡誠一氏にお話しいただきます。

その他の講座案内

○別院声明教室(全五回)

一月一回、午後六時～八時

二月十八日(木)、三月十七日(木)

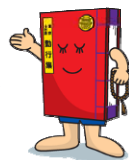
四月二十一日(木)、五月十九日(木)

六月十六日(木)

講習内容 真宗大谷派勸行集赤本

講 師 長田 暢 氏(第十六組 善興寺)

参加費 五〇〇円/回



今回は真宗大谷派勸行集赤本から、正信偈草四句目下、念仏讀三洵、回向、御文などを皆さまとお声を合わせてみたいと存じます。

また、実際に筆で節符をなぞりながら声を出すことで、声明節符をひもときます。

○別院書道教室

一月二回第一、第四水曜日、午後六時三十分～八時

講師 木原光威氏(新潟県書道協合理事)

月謝 一五〇〇円(テキスト代含む)

随 時 募 集 中

○三条別院巡回

三条別院の御影をお迎えして、聞法会を開催しませんか?

○別院奉仕研修

日程及び内容については「相談ください」。

◎冥加金 日帰り一五〇〇円、一泊二日二五〇〇円

◎食事代(昼・夕食は業者発注)

・朝食代 五〇〇円、昼食代 一〇〇〇円程度

○三条別院有志の会

・夕食代 一三〇〇円程度
もともと三条別院のお朝事にお参りしているご門徒からはじまった清掃奉仕・法話・座談を中心とした有志の会です。月一回の例会、別院行事に併せた奉仕活動や季節ごとの懇親会を行っております。参加希望の方は、ぜひ別院までご連絡ください。

○座講(清掃講)

二〇一五年九月に結成された、生まれただてホヤホヤのお講です。現在、講員は全員で十一名。さらに多くのみなさんと一緒に活動をしたいと現在講員大募集中です!

ぜひ、御一緒に清掃奉仕と十三日の定例法話の聴聞をしませんか!講員一同、心からお待ちしております!

◆編集後記◆

年が明けてもう二月になり、一月末には、雪が多く降りました。教区内の皆様は大丈夫でしたか。

一月の御命日のついで、米山裕子氏より『歎異抄』の第一章についてのご法話をいただきました。学生の頃、大谷大学短期仏教科で三木彰円先生の授業を聞いて何を考えていたかな...と思いつきながら聞いてみると、序文の「幸いに有縁の知識に依らずは」の「幸いに」という言葉に触れ、なぜ唯円が「幸」という漢字を使ったのだろうか疑問に思いました。それを先輩に話すと、「幸」は「手かせ」の象形文字であり、手かせ(刑罰)から免れたことを意味する。「自我」の束縛から離れることができるというのでは、と聞かせてもらいました。私は、漢字一文字でも『歎異抄』の奥が深いことを思い、先輩に感謝しました。(藤井)